

目的 乳汁中の葉酸含有量は一般に低値で、かつかなりのバラツキがあるとされているが、我が国における報告は少ない。著者は先に報告した葉酸抽出条件（オーストラリアビタミン学会大会）を適用して、試料の前処理を行ない、母乳および牛乳中に含まれる葉酸量を実測し両者を比較検討すると共に、今日の乳児期の葉酸栄養の実態を把握したいと考え、本実験を企画した。

方法 健康で正常分娩であったク名乳母（初産婦3名、経産婦4名）を被検者とし、試料を滅菌褐色瓶に採乳後（約5~10 ml）直ちに乳汁1 ml当り5 mgのアスコルビン酸を加え、0°C又は-20°Cに保存した。葉酸抽出は、0.5%のアスコルビン酸を含む燐酸緩衝液を用い、Pronaseによる前処理を行なった後、常法に従いトリ胂、ブタ腎 Conjugases による37°C、1夜消化の後、L. caseiを用いる微生物定量法によって遊離型葉酸ならびに総葉酸量を測定した。又牛乳（生乳、濃厚乳、市販加工乳）についても同様の分析を試みた。

結果 ①牛乳中の遊離型葉酸値は、加熱処理によって漸次減少する傾向を示した。②Pronase処理により、牛乳中葉酸量は漸減したが、母乳中の遊離型葉酸、総葉酸量は共に常法による値の約2倍量となった。③母乳中の遊離型葉酸量は19.4（3.1~59.2）ng/ml、総葉酸量は76.2（18.0~148.5）ng/mlであり、経産回数による影響は観察されなかった。しかし、経産婦の乳汁中葉酸量にはかなりの中が認められた。④分泌期により母乳を比較したところ、成熟乳中葉酸量が最も多量であった。⑤以上の成績から、母乳による乳児期の葉酸栄養は、今のところ問題はないと思われる。